

図書館

ウォーカー

旅のついでに図書館へ

オラシオ



旅のついでに図書館を楽しむために

旅に出た。運転免許を持っていないので、鉄道とバスを乗り継ぐ旅になる。運行本数の少ない地方だから、乗り継ぎ時間が小一時間ほど空いてしまった。さてどうしよう。ある人は個人経営の喫茶店を探すかもしれない。また別の人は前もって企画展を調べておいた博物館や美術館に行くのだろう。ひよっとしたらあてもなくぶらぶらと街歩きする人もいるのかも。でも私なら、その街の図書館に行く。だって私は、旅のついでに図書館を訪ねる「図書館ウォーカー」なのだから。本書にはそんな旅の数々が収録されている。

この時点で「旅先で図書館に行つていったい何をするんですか？」と訊きたくなった方もいらっしゃるだろう。また実際に旅先でも「なぜ旅行者が図書館に来たの？」という反応をされることも多かった。まあそうですね。私も最初は「旅のさなかに図書館に行つてもやることがない」と思っていた。基本的に図書館では、よそから来た旅行者は本を借りられない。その館でしかできないような特別な調べものでもない限り、滞在時間もせいぜい30分どまりだろう。詰んだ。ところが私はいくつもの旅を経て、1冊も本を借りられなくても、むしろ旅先で図書館を訪ねるほうが、よりこの施設を楽しめるのかもしれないと考えるようになったのだ。

いちばんわかりやすい例は建築や内装などのデザイン面だろう。予備知識も必要なく、自分の感覚で楽しめばいい。世評が高い名建築でなくても、細部の意匠や備品などに魅力を感じることもある。こ

うした図書館の楽しみ方は写真メインのウェブ記事などで広まり、かなり一般的になったように思う。一方で私は、図書館が「地域密着型施設」であることに注目している。図書館は基本的に地元の人が普段使いする公共施設なので、観光展開されていない住宅街など住民が通いやすい立地になっていることのほうが多い。利用者も近くに任んでいる普段着の人たちだ。つまりその土地の日常の空気感を味わいやすい。これは博物館や美術館など外部の人向けの施設にはない魅力だと私は思っている。

また最初に触れたように、私は運転免許を持っていない。必然的に旅先の移動を公共交通に頼らざるを得なくなる。だが、これがまた楽しい。公共交通を利用することは、鉄道駅やバス停から図書館まで歩いて行くということでもある。徒歩のスピードでゆっくり街を眺めると、気候や地理的条件、風土などに根ざした街づくりの個性が浮かび上がって見えてくる。図書館に着くと、郷土コーナーの蔵書や館内外のデザインにその地域の特性が反映されていることもある。最近では観光パンフレットやご当地系イベントのチラシを配布している館も多く、そうした情報をチェックすればその旅の「これから」をより充実させてくれるだろう。個人的には、知らない街をあてもなくぶらつくより、図書館を目的地に設定して散策するほうが、短時間で充実した街歩きになるように感じる。私は「この街で生まれ育ったらどんな青春を送るのかなあ」なんて想像しながら図書館への道を歩くことが多く、そうしたイマジネーションを生んでくれるのも図書館ウォーカーという楽しみ方の醍醐味だ。

本書は、私が住む青森県の津軽地方で発行されている新聞「陸奥新報」の連載が元になっている。ご依頼をいただいた直後の打ち合わせで、担当記者からまず提案されたのは「オラシオさんは元・図書館員なので、何か図書館に関することを書いてください」だった。その時すぐに頭に思い浮かんだのが、これまで旅先で訪ねてきた図書館や旅そのものをつづるエッセイというコンセプトだ。ほとんど

考えることなくその案が出たのは、旅のついでに図書館を訪ねたたくさんのお出が私にとってほんとうに楽しい時間で、その楽しさを何かの形で書けたらいいな、もっといろんな人に知って欲しいなとずっと心のどこかで思い続けていたからなのだろう。

本書に収録した旅の数々では、絶景やグルメ、人との出会いなど旅そのものについてはもちろん、旅のさなかで感じたことや、音楽ライターというもう一つの立場から見えたものなど、いくつもの寄り道をしながら図書館にたどり着く。図書館は、人と情報全般（つまりあらゆるものごと）をつなげる役割を担う施設なので、図書館へとつながるストーリーもいろいろあっていいのかな、と思いつながら書いている。旅の合間のひと休みのなコラムも4つ書き下ろしてみた。青森県内の読者に向けた表現も残っているので、ローカルメディアの雰囲気も味わっていただけると嬉しい。

本書はいわゆる「図書館ガイド」とは違い旅行者目線のエッセイなので、各館データ欄には公共交通を利用したアクセス情報や休館日・開館時間、近隣エリアのおすすめスポットなど旅に役立つ情報を掲載し、逆に蔵書数や入館者数など旅行者にとってあまり意味のないデータは省いた。ご紹介した中には図書館の他、公民館図書室や図書コーナーなども含まれているが、旅行者も無料で利用できるという点では共通している。掲載した写真は必ずしも天気や構図が良いとは言えないものも多いが、旅する感覚をよりリアルに味わっていただくために、旅のさなかで実際に撮影してきたものを採用した。

さあみなさん、旅のついでに図書館へ行ってみませんか？

目次

旅のついでに図書館を楽しむために

003

【北海道】

島牧村若者総合スポーツセンター図書室

010

新冠町レ・コード館図書プラザ

013

稚内市立図書館

016

コラム 01

移住体験で利尻島図書室めぐり

019

【東北】

田子町立図書館 (青森県)

024

中泊町日本海漁火センター図書室 (青森県)

027

平川市平賀図書館 (青森県)

030

大船渡市立図書館 (岩手県)

033

洋野町立種市図書館 (岩手県)

036

仙台市広瀬図書館 (宮城県)

039

東松島市野蒜市民センター図書コーナー (宮城県)

042

八峰町文化交流センター「ファガス」図書室 (秋田県)

045

横手市立横手図書館 (秋田県)

048

市立米沢図書館 (山形県)

051

新地町図書館 (福島県)

054

二本松市立二本松図書館 (福島県)

057

コラム 02

図書館勝手コライズ

060

【関東】

茨城県立図書館 (茨城県)

064

土浦市立図書館 (茨城県)

067

宇都宮市立南図書館 (栃木県)

070

日光市立藤原図書館 (栃木県)

073

沼田市立図書館 (群馬県)

076

さいたま市立中央図書館 (埼玉県)

079

茂原市立図書館 (千葉県)

082

青梅市立青梅中央図書館 (東京都)

085

藤沢市総合市民図書館 (神奈川県)

088

【中部】

燕市立分水図書館 (新潟県)

092

新潟市立新津図書館 (新潟県)

095

南魚沼市図書館 (新潟県)

098

滑川市立子ども図書館 (富山県)

101

七尾市立図書館 (石川県)

104

あわら市金津図書館 (福井県)

107

甲斐市立双葉図書館 (山梨県)

110

南木曾町公民館図書室 (長野県)

113

美濃加茂市中央図書館 (岐阜県)

116

静岡市立御幸町図書館 (静岡県)

119

大山市立図書館本館 (愛知県)

122

志摩市立図書館浜島図書室 (三重県)

125

コラム 03

さよならも言えずに―今はなき旧図書館の思い出

128

【近畿】

守山市立図書館 (滋賀県)

132

京都市岩倉図書館 (京都府)

135

堺市立中央図書館 (大阪府)

138

松原市民図書館「読書の森」 (大阪府)

141

新温泉町立加藤文太郎記念図書館 (兵庫県)

144

兵庫県立図書館 (兵庫県)

147

川上村立図書館 (奈良県)

150

串本町図書館 (和歌山県)

153

コラム 04

図書館で親孝行する方法

156

【中国・四国】

鳥取県立図書館 (鳥取県)

160

湯梨浜町立図書 (鳥取県)

163

出雲市立海辺の多伎図書館 (島根県)

166

浜田市立中央図書館 (島根県)

169

倉敷市立児島図書館 (岡山県)

172

三次市立図書館 (広島県)	175
下関市立中央図書館 (山口県)	178
三好市中央図書館 (徳島県)	181
土庄町立中央図書館 (香川県)	184
宇和島市立簡野道明記念吉田町図書館 (愛媛県)	187
黒潮町立大方図書館 (高知県)	190
【九州・沖縄】	
福岡市総合図書館 (福岡県)	194
玄海町立図書館 (佐賀県)	197
諫早市立たらみ図書館 (長崎県)	200
小国町図書館 (熊本県)	203
熊本市河内公民館図書室 (熊本県)	206
津久見市民図書館 (大分県)	209
延岡市駅前複合施設エソックス図書コーナー (宮崎県)	212
宮崎市立図書館 (宮崎県)	215
指宿市立山川図書館 (鹿児島県)	218
南さつま市立笠沙図書館 (鹿児島県)	221
南城市立図書館佐敷分館 (沖縄県)	224

あとがき	227
図書館 I n d e x	229

〈注記〉

・本書に掲載されている開館時間、休館日などのデータは2022年10月現在のもので、天候・社会情勢等により急遽変更される場合がありますので、事前にご確認ください。

・各ページのデータ項目にある記号は、

- ⊗ 公共交通を使ったアクセス情報
- 住 住所、開館時間、休館日
- 近 近くのおすすめスポットです。

所要時間は目安、また休館日は祝日・休日と重なるときは開館し、翌日休館の場合が多くなっていますので、ご注意ください。

島牧村若者総合スポーツセンター図書室（北海道）

旅先で図書館を訪れることが多い。こうして仕事にもしているのだが、自分にいくつかルールを課している。その中の一つが、例えば取材目的でも館内の撮影はしないということ。元図書館員なので現場に迷惑をかけたくないのだ。

例えば「絶景図書館」のような企画は数字がとれそうに思うが、館内からの眺望を公開することで撮影希望者が続出すると、図書館業務に影響が及ぶかもしれない。館内撮影は基本的に許可制だが、許可さえとればどんどんやってくれという意味ではなく、できればやめて欲しいというのが本音。

また無料で誰でも利用できるという図書館の心理的なハードルの低さは残念ながら悪意を持つ人に

とつても同じ。図書館員は迷惑利用者の存在にいつも神経を尖らせている。盗撮のおそれもあるし、個人情報保護のため他の利用者が写った写真をSNSに投稿するのもNG行為。その辺の事情もあり、撮影希望者に対する対応はなかなか難しいのだ。

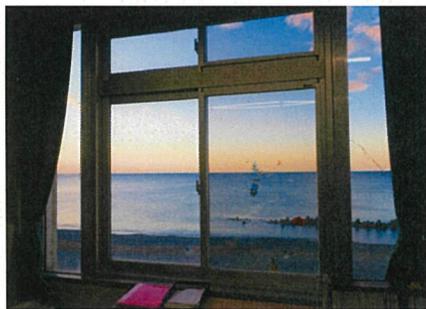
とは言え、なりゆきで撮影をさせていたくともある。ある年の10月に、北海道後志地方の日本海沿岸エリアを旅した時のこと。最近「文献調査」問題で巷を賑わせた寿都町のすぐ南に、島牧村という自治体がある。寿都からのバスは1日3〜4本で、公共交通で訪れるのはなかなか困難な村だ。

寿都から北側の岩内町に戻るバスまでかなり時間が空いたのだが、島牧村までバスで往復するとちょうど時間がつぶせる。滞在時間約20分の島牧旅に行くことにした。陽が沈みゆく海岸線の車窓風景は、今も時々思い出す美しさ。騒がしかった地元の子生たちが乗車後ピタッと黙ったのも印象的だった。

オレンジに染まる海に注ぐ千走川の河口部分に、若者総合スポーツセンターが建つ。外観は完全に体



スポーツセンター横を流れる千走川の河口



なりゆきで撮らせていただいた
図書室からの海

育館なのだが、この2階に図書室があるという。コロナ対策のため受付で住所や電話番号を書くことによそ者などほば来ない施設だからか、受付の女性がかなり驚き「村外の人は使えませんよ」と仰る。

村のホームページで利用制限が解除されたことを確認済みだ。その旨を話しているうちに誤解に気がついた。彼女の言う利用は「本を借りる」という意味なのだ。勢いで、取材目的だから本は借りないと言ってしまう。女性はまた驚きつつ、とても喜んで図書室まで案内してくださった。

室内で遊ぶ子どもたちに珍獣でもやって来たかのように見られつつ、窓からの絶景に釘付けになる。砂浜横の高台にあるので海がものすごく近い。職員さんや受付の女性が「写真撮るでしょ？」と仰るので、マイルールを破って撮影させていただいた。

日本で一番海に近い館の一つかもと言うと、受付の女性がまた大喜び。ああ、帰りのバスまであと数分だ。今度はゆっくりりするぞと誓いつつ、建物を飛び出したのだった。



ニセコバス島牧線の車窓風景

- 交 ニセコバス島牧線スポーツセンター前バス停から徒歩1分
- 住 〒048-0623 北海道島牧郡島牧村江ノ島245
- 開 13時～22時（要確認）
- 休 月曜、年末年始
- 近 バス車窓からの海の絶景、村内各地の温泉旅館

著者略歴

オラシオ（白尾嘉規）

ライター、エッセイスト。大阪育ち青森市在住。
2019年11月から陸奥新報で「図書館ウォーカー」を連載中。
旅先で訪ねた図書館は350以上。公共図書館員として8年間
勤務経験あり。

「図書館へ行こう!!」(洋泉社 MOOK) (洋泉社 2016)、「図書館
徹底活用術」(寺尾隆監修 洋泉社 2017) に分担執筆や編集
協力の形で関わる。

音楽の分野ではコンピレーション CD「ポーランド・ピアノ
リズム」「ポーランド・リリシズム」(CORE PORT) 選曲解説
の他、ライナー執筆など多数。

note フォロワー 3.5 万超 (<https://note.com/horacio/>)

図書館ウォーカー

—旅のついでに図書館へ

2023年1月25日 第1刷発行

著者 / オラシオ
発行者 / 山下浩
発行 / 日外アソシエーツ株式会社
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス
電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845
URL <https://www.nichigai.co.jp/>

組版処理 / 株式会社クリエイティブ・コンセプト
印刷・製本 / シナノ印刷株式会社

©Horacio 2023

不許複製・禁無断転載
<落丁・乱丁本はお取り替えます>

(北越メヌエットハイホワイト使用)

ISBN978-4-8169-2952-6

Printed in Japan, 2023